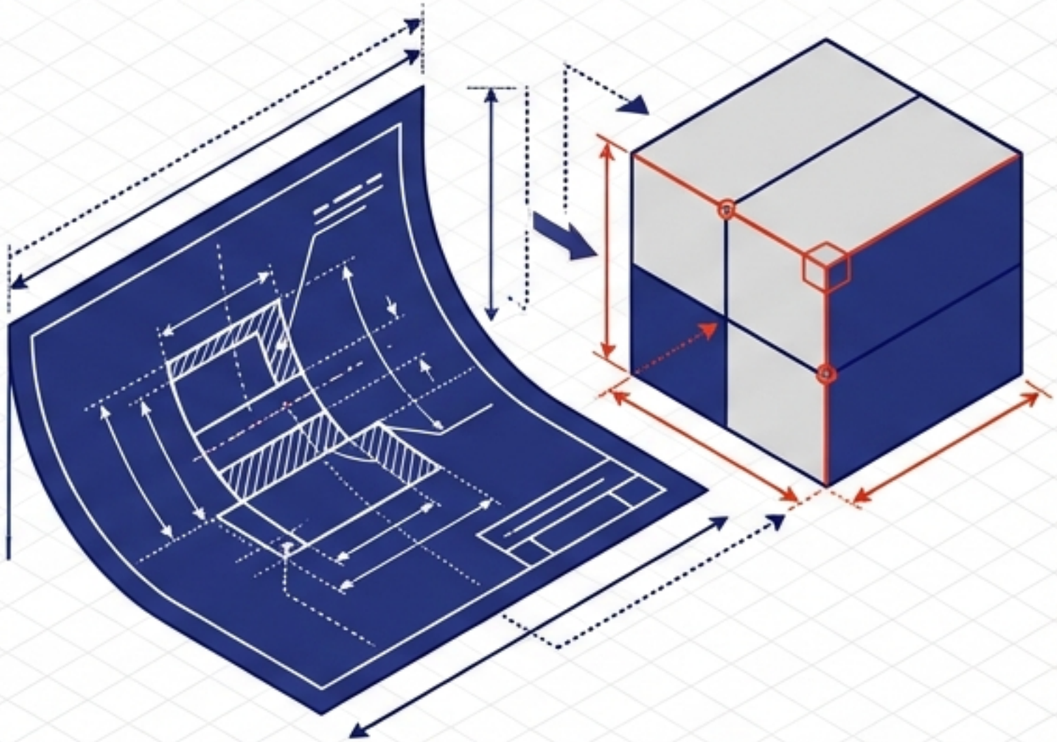
ビジネスにおける生成AI活用の現在地と突破口

リスクを管理し、組織の「標準化」を加速させる実践ガイド



株式会社観音

NotebookLM

講師紹介：AIと地域経済をつなぐ

菅原 (Sugawara) - 取締役
Regular

株式会社観音（Kannon Inc.）

- 23歳、創業3年目のスタートアップ
- ミッション：「情報格差をなくす」

主な導入・研修実績 (Track Record)

岐阜信用金庫、十六銀行など、
地方銀行へのAI研修・導入
支援実績多数

EST. PARTNERSHIPS

岐阜金庫 Gifu Shinkin Bank

十六銀行 Juroku Bank

EST. PARTNERSHIPS

© Co NotebookLM

日本企業の「認知」と「実装」の深い溝

米国フォーチュン500企業: 92%

業務利用率 (Business Usage Rate)

日本企業: 1%

日常的な業務利用率 (Daily Business Usage Rate)

AIの認知率はほぼ100%だが、実際に業務フローに組み込めている企業はわずか。
このギャップこそが、最大の成長機会である。

NotebookLM

「AIは使えない」は過去の話：驚異的な知能進化

AIが間違える時、それはAIの能力不足ではなく、**入力情報（指示）の不足**である可能性が高い。

 © Copyright Kannon reserved.

NotebookLM

なぜ、トップダウンの号令でも現場は動かないのか

Source: 野村総合研究所（NRI Report）

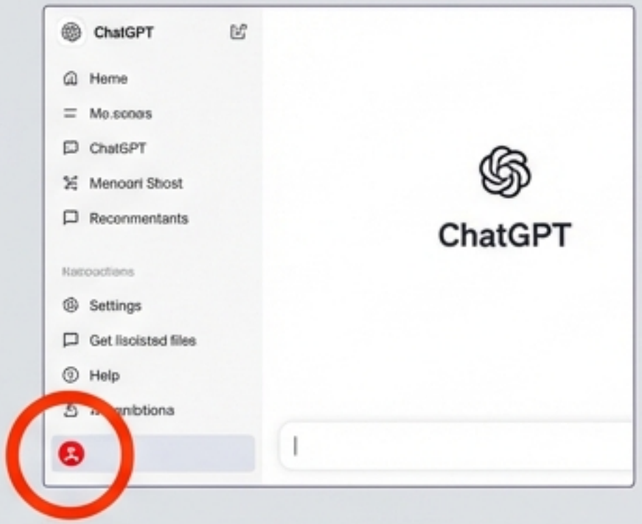
1. 従業員のリテラシー不足 (Insufficient Literacy) ✓
2. リスクへの懸念 (Fear of Risk) ✓
3. 運用ノウハウの欠如 ✓
4. 業務イメージが湧かない ✓

本資料では、特に阻害要因となっている「リスク」と「リテラシー」を解決する。

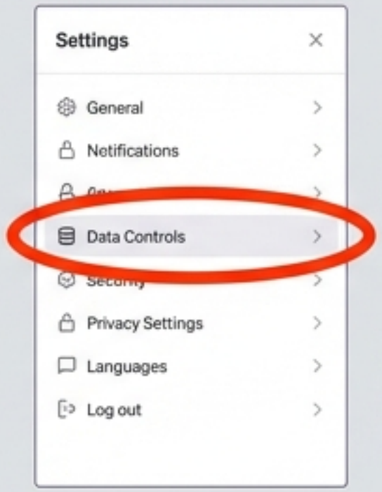
© Copyright Kannon re
NotebookLM

【重要】情報漏洩リスクを「設定」で遮断する

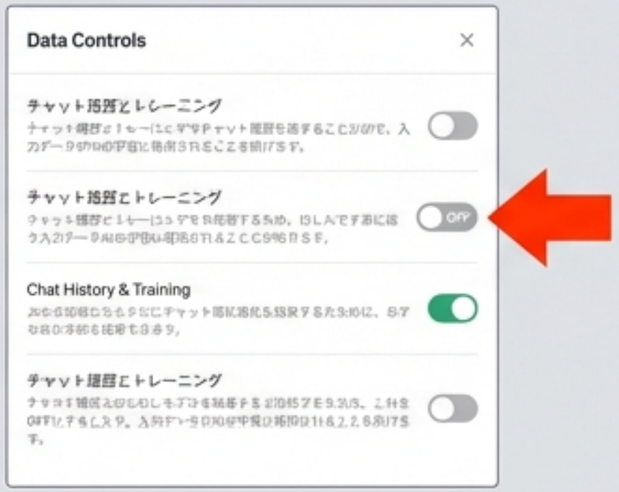
必須アクション (Mandatory Action)



1. Settings（設定）をクリック



2. Data Controlsを選択



3. 「すべての人のためにモデルを改善する」をOFFにする

デフォルトは「ON（学習する）」になっている。
これをOFFにすることで、入力データがAIの学習に使用されることを防げる。

© Copyright Kannon reserved

NotebookLM

マインドセットの転換：PilotとCo-Pilotの関係

Pilot (人間)

- 意思決定 (Decision)
- 指示 (Instruction)
- 責任者 (Manager)

Co-Pilot (AI)

- 実行 (Execution)
- 高速処理 (Processing)
- 優秀な部下 (Assistant)

Microsoftが提唱する「Co-Pilot (副操縦士)」という概念。

人間が主体となり、AIを「優秀な部下」としてマネジメントする意識が必要。

© Copyright Kannon re
NotebookLM

プロンプト＝「頭の中の言語化」

**AIはウェブ上の情報を全て持っている。的確な答えが返ってこないのは、
私たちが「何を知りたいか」を正確に定義できていないからだ。**

© Copyright Kannon
NotebookLM

実践事例①：メール作成の「ゼロ・タイピング」化

シナリオ：研修の問い合わせに対する返信

- 2/27（金）10-12時
- ゴール：社内のAIリテラシー向上
- 詳細説明したいのでオンラインMTG打診して

数秒のメモ書き（Bullet Points）

田中様

株式会社観音の雲原です。
この度はAI研修にご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

つきましては、研修内容の詳細なご説明と、貴社の状況に合わせた提案をさせていただきたく、下記日程にてオンラインでのお打ち合わせはいかがでしょうか。

2月27日（金）　10:00〜12:00

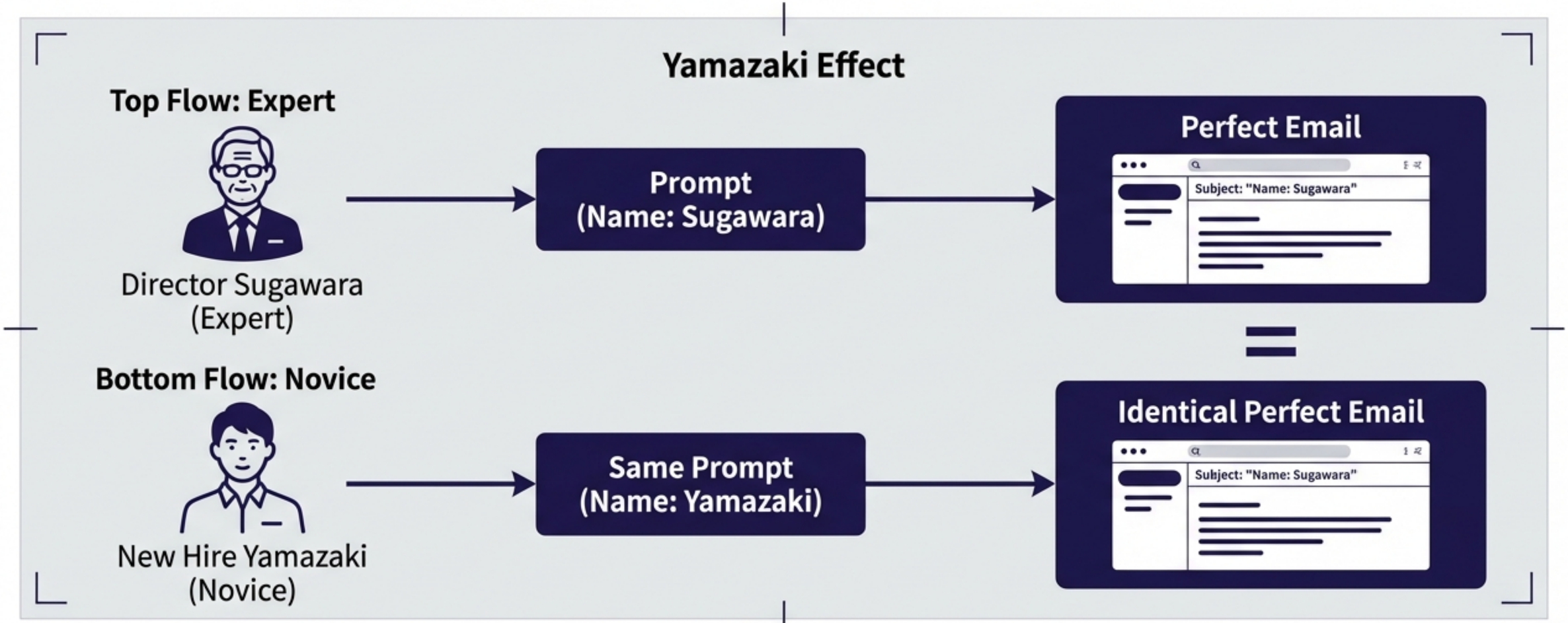
ご都合の良い時間帯をご提示いただけますと幸いです。
何卒よろしくお願い申し上げます。

完成されたビジネスメール（Polished Email）

思考の整理（箇条書き）だけで、丁寧なビジネスメールが数秒で完成する。

© Copyright Kanno NotebookLM

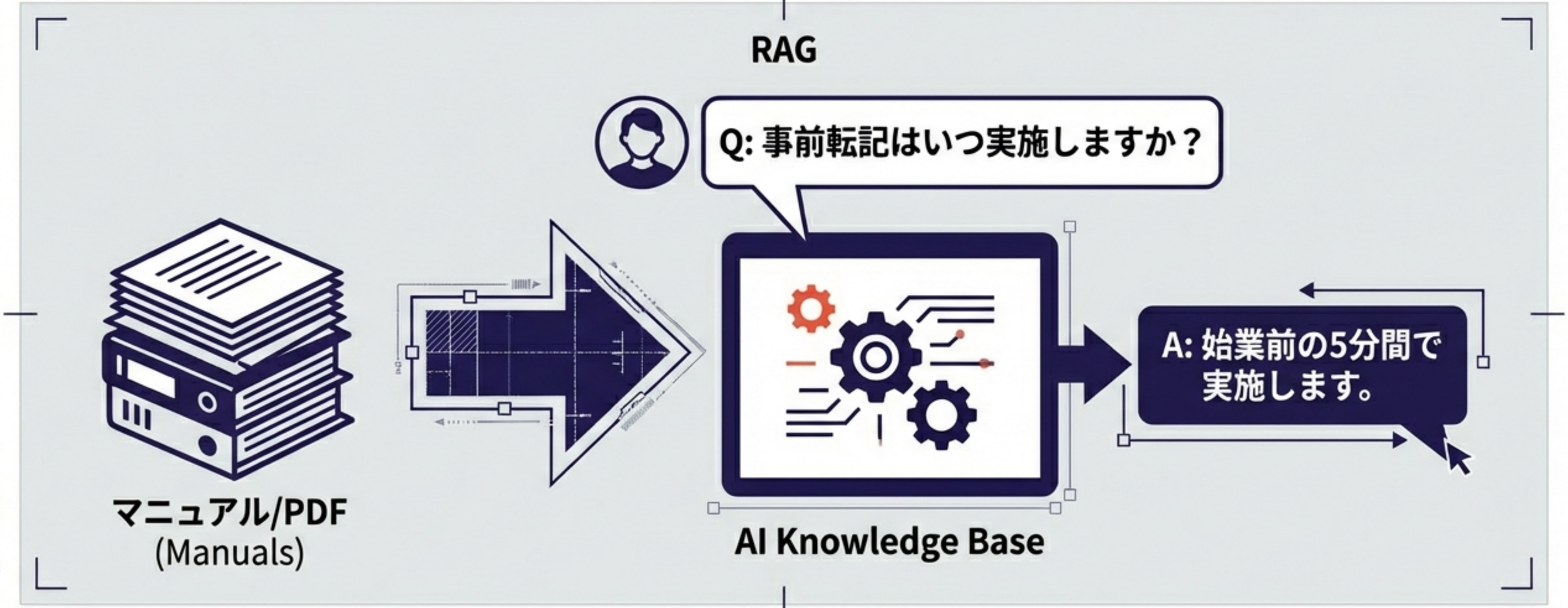
効率化の先にある価値：「スキルの標準化」



名前を「菅原」から「山崎」に変えるだけで、新人がベテランと同じクオリティのアウトプットを出せる。
個人の能力差をプロンプトで埋める。これが組織にとってのAI導入の本質的価値。

© Copyright Kannon
NotebookLM

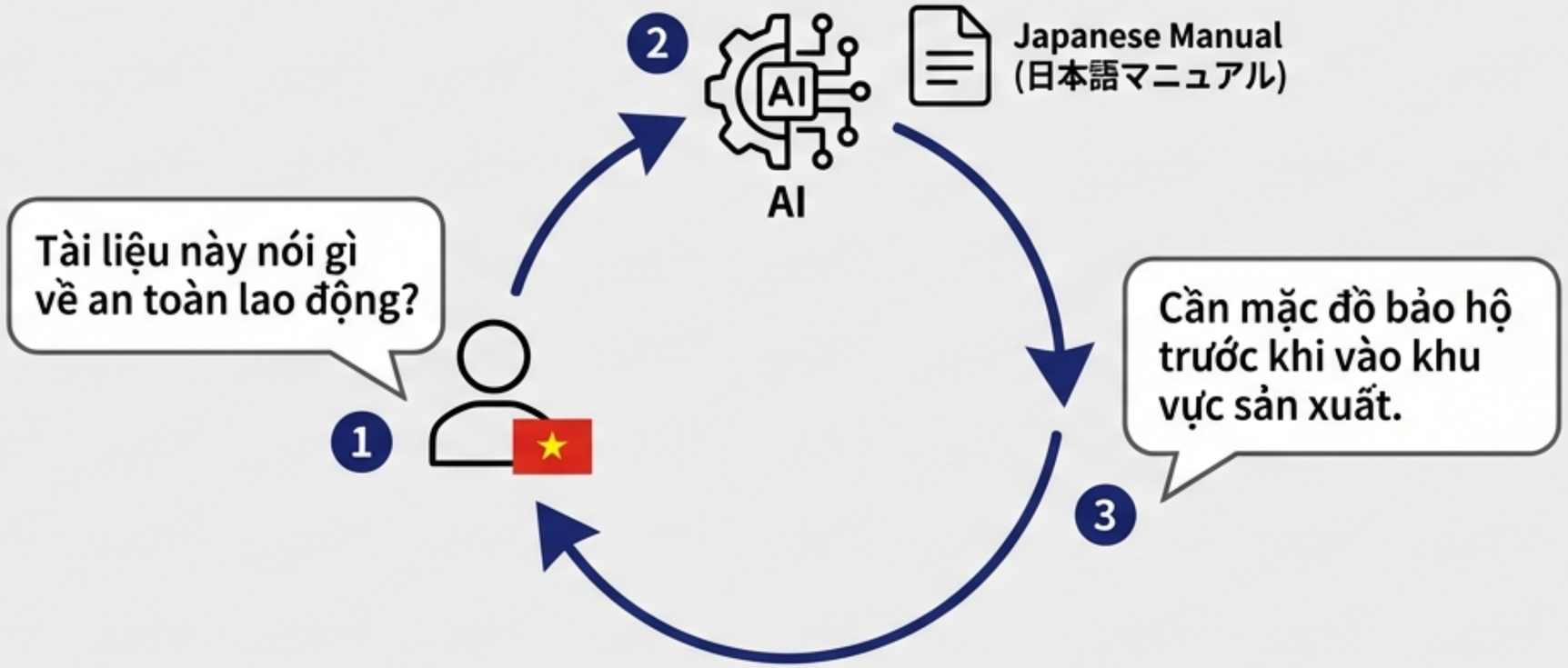
実践事例②：社内ドキュメントの「対話型」検索



誰も読まない数百ページのマニュアルが、一瞬で「使える知識」に変わる。

© Copyright Kanno NotebookLM

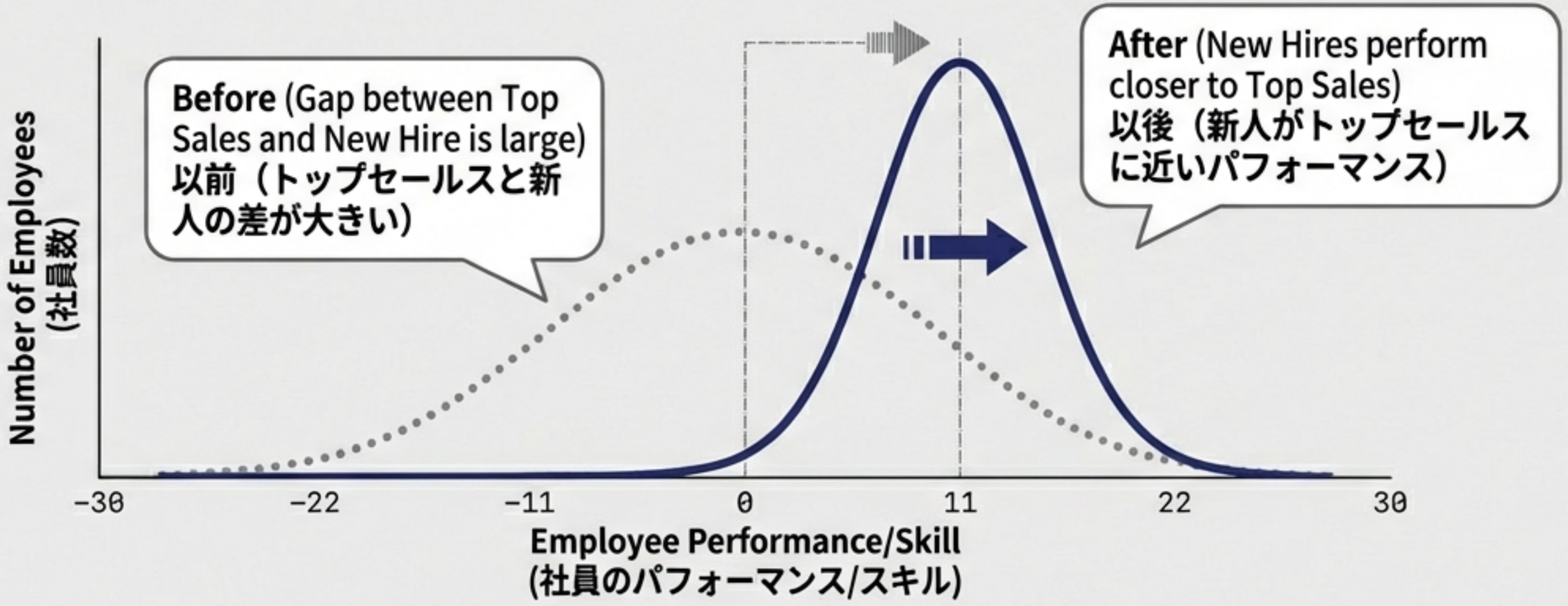
言語の壁を超える：多言語対応と外国人材の戦力化



翻訳のタイムラグなしで、外国籍従業員が日本の業務知識に直接アクセス可能になる。

PAGE 10/16 © Copyright Kannon reserved.
NotebookLM

「属人化」から「形式知」へ：組織全体の底上げ



ベテランの「視点」や「調査項目」をプロンプト化し共有することで、
経験の浅い社員でも高度な仮説構築やリサーチが可能になる。

© Copyright Kanno NotebookLM

結論：AIは勝手に育つ。人間はどうするか？

「ツールは進化する。
使い手が進化しなければ、
置いていかれるだけだ。」

GoogleやOpenAIが勝手にAIを賢くしてくれる時代。私たちがやるべきは、それを「使う」こと。
明日からではなく、今夜インストールして試してください。

© Copyright Kannon reserved.
NotebookLM

「AI人材育成のための次のステップ」

実践的AI研修カリキュラム (11 Hours)

- 現場での「定着」と「標準化」に特化
- 助成金の活用も可能

株式会社観音 (Kannon Inc.)

お問い合わせ・資料請求はこちら

© Copyright Kanno NotebookLM